

『清心語文』投稿要領

I. 厳守事項

一. 枚数上限

原則として、四〇〇字詰原稿用紙換算で、三〇〇〜四〇枚程度（一六〇〇〇字）であるが、一三〜一ジ分まで掲載可能。ただし、タイトルレイアウトの関係により、六行分（縦書きの場合、上下段ともに六行分なので、実質一二行分）は余白を残すこと。

また、最終頁に改まって、一、二行で終了する構成はなるべく避ける。

三. 注の付け方

● 付加箇所について

- ・ 形式は、(注1)、(注2)・・・に統一する。
- ・ 文字サイズは8ポイントとする。(万一、文字サイズが変えられない場合は、朱筆で指示を入れる。)
- ・ 注を付加する文章の句点直前に入れる。

【例】

○ と考えられる(注1)。
× と考えられる。(注1)

● 表記箇所について

- ・ 注表記の開始は、本文最終行から一行空けて始める。
 - ・ 「注」の字は注1の箇所にのみ記す。
 - ・ 「注」の字のみゴシック体に変え、算用数字は明朝体のままにしておく。
- 注番号を記した後、一マス空けて注内容を書く。また、二行にわたる場合は、開始箇所は一行目の空白部分からにする。

【例】

と考えられるのである。

注1 □ 山田太郎は・・・
□ 2 □ 佐藤花子は・・・
□ □ ↑ というのである。
□ 3 □ 注1に同じ。

2マス空ける。

1マス空ける。

「注」の字のみゴシック体

「注」の字を書かない。

